

(様式1)

校 種	小 ・ 中	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-------	------	-----	-----	------------

令和4年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、心身ともに健康で、自主的・自律的に行動し、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界に貢献できる人間の育成を目指す。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・心身共に健康で勤労を尊ぶ生徒
- ・基礎となる学力を身につけ、自ら学ぶ意欲をもつ生徒
- ・礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
- ・主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
- ・文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

生徒の信条 「強く 賢く 美しく」

2 学校経営の理念

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、すべての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針

〔城山地域学校園教育ビジョン〕 ～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～
みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地球を愛する城山の子

- (1) 現行学習指導要領に基づき、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、目標に向かって粘り強く取り組むことが求められる活動等を通して、豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。〈生徒〉
- (2) 互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに働き方改革の推進により職員の負担軽減と業務の効率化を図る。〈教職員〉
- (3) 小中間の連携強化を図り義務教育の連続性の確保と、地域人材・地域教材を有効に活用し、地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。〈小中一貫教育・地域学校園〉

4 教育課程編成の方針

関係法令、県教育振興基本計画 2025、市学校教育スタンダードや指導の重点に基づき、生徒が持続可能な社会の創り手となることができるように、学校教育を通して育むべき資

質・能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努める。その際、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者等と連携した、地域に根ざした豊かな体験活動の充実を図る。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（1）学校運営

- ・一人一人のよさを認め励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実
- ・地域の教育力を生かす教育活動の推進
 - ・目標に向かって粘り強く取り組む力を育む教育活動の工夫（SDGsへの取組活用）
 - ・業務の効率化等による働き方改革の推進

（2）学習指導

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ・学習目標の明確化と振り返りによる充実
- ・読解力向上に向けた読書活動の充実
- ・学習習慣の定着を目指す指導
- ・SDGs、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進

（3）児童生徒指導（心の教育・生徒指導）

- ・自己有用感を味わえる教育活動の推進
- ・認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止
- ・規範意識の醸成
- ・生徒会、部活動等による自主・自律の精神の育成

（4）健康（体力・保健・食育・安全）

- ・健康（感染症対策）と食の安全確保
- ・家庭・地域・行政と連携協力して実施する交通安全、防災、保健等の指導
- ・学校栄養士を核とした望ましい食習慣の育成
- ・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

- ・宇都宮の特色や魅力に関する事項についての知識を身に付け、郷土のよさを理解することができる力
- ・宇都宮に係る習得した知識を活用して、郷土に対する思いや魅力を効果的に表現したり、郷土の未来を考えたりすることができる力
- ・郷土宇都宮を愛する心情、宮っことしての誇りをもって、郷土宇都宮の未来を切り拓いていこうとする実践的な態度
- ・SDGsを活用した学習に取り組む経験を積むことを通して、他地域や他国の人々と

の交流に自信をもって対応できる力

(2) 具体的取組(提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇)

◇①地域のよさを知る「ふるさと学習(宇都宮学)」の推進

・総合的な学習の時間の「ふるさと学習(宇都宮学)」における、学年別学習テーマの設定

第1学年「城山地区の歴史を学ぼう」

第2学年「城山地区の魅力ある産業について学ぼう」

第3学年「城山地区の魅力を発信しよう」

・大谷石加工体験(2学年で実施)など地域の外部講師を活用した教育活動の実施

・学習の成果を共有する場の設定

・「ふるさと学習(宇都宮学)」の学校ホームページ等での紹介

②城山地域学校園における授業力向上プロジェクト研究の推進とSDGsへの取組推進

◇・SDGs、主権者教育と関連を図った宇都宮学の学習の充実に向けた研究

・学校園内の小中学校で実施しているSDGsへの取組の共有と小中連携

③地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度を養う地域交流、地域貢献活動の充実

◇・SDGsの視点を加えた自治会単位での「城山あったか活動」の実施

・「城山あったか活動」の学校ホームページ等での紹介

・「城山地区体育祭」「城山地区文化祭」等、地域行事におけるボランティア活動の奨励

・学校の教育活動への理解を深めてもらうための土曜授業や学校公開の実施

④小中一貫教育の推進

・小学6年生の中学校訪問の充実

◇・学習発表会(合唱コンクール)への地域学校園内小学校6年生の招待(R4検討事項)

・地域学校園あいさつ運動の推進

・地域学校園内小中学校合同での冒険活動教室の充実(R4は中止)

⑤魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力による各種教育活動の企画・推進

・城山再発見の実施

・地域協議会コーナー(城山ライブラリー)の充実

・「城山あったか活動」川柳募集

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり(「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携協働を含む)

①基本的考え

「7 特色ある学校づくり等に関する取組」の「(1) 育てたい資質・能力」を育成するために、魅力ある学校づくり地域協議会や地域内の各団体・人材を有効かつ積極的に活用し、連携・協力を深める。

②主な取組

「7 特色ある学校づくり等に関する取組」の「(2) 具体的取組」参照

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

地域学校園として育成したい小中共通の児童・生徒像を明確にして取り組んでいくことが大切であることから、部会ごとに小中共通の重点目標を共有して連携・協力する。

②主な取組

ア．学力向上・宇都宮学部会

- ・地域学校園としての「学習のきまり」や「家庭学習の手引き」の作成・配付と活用
- ・「城山ライブラリーニュース」の発行
- ・地域学校園内授業公開の実施
- ・「宇都宮学」の学習の充実に向けた研究

イ．学校生活適応支援部会

- ・地域学校園あいさつ運動週間の設定 5月、11月（中学生の小学校訪問）
- ・小中児童情報の引き継ぎ 3月（対象：小学6年）
- ・児童生徒情報の共有のための小中学校の連携強化（「生活のきまり」の共有）

ウ．健康・体力・食育推進部会

- ・保健指導に関する小中連携の充実
- ・地域内の食材を使った統一献立の実施
- ・「お弁当の日」の統一実施

エ．交流連携推進部会

- ・中学校学習発表会（合唱コンクール）への地域学校園内小学6年生の招待（R4は、感染症の状況を検討して決定する）
- ・「城山地域学校園小中一貫教育だより」の発行（年2回）
- ・地域学校園内小中学校合同の冒険活動教室（R4は中止）及び小学6年生の中学校訪問の充実

（3）不登校対策

①基本的考え

不登校生徒を生まないために、「魅力ある学校づくり」を推進しながら「悩みの早期発見・早期対応及び精神的に強くたくましい生徒の育成」を図るとともに、不登校生徒に対する支援充実のために「一人一人の実態に応じた効果的な支援」を推進する。

②主な取組

- ・「学校生活に関するアンケート」（年3回）や教育相談の実施と充実
- ・Q-U検査結果の分析と指導・支援への有効活用
- ・教育相談体制の充実（担任、学年主任、生徒指導主事、養護教諭、SCM、SC、MS等の連携強化）
- ・不登校傾向の生徒の居場所となるサポートルームの効果的な運用
- ・保護者と連携した初期対応と1人1台端末を活用した連絡・学習支援

（4）GIGAスクール構想

①基本的考え

全ての生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、学

校教育情報セキュリティポリシーを踏まえ、全教職員共通理解の下、1人1台端末環境を生かした教育活動を推進する。

②主な取組

- ・端末の活用ルール徹底と校内指導管理体制の整備
- ・深い学びの実現に向けた、協働学習ツール等の効果的な活用方法の研修実施
- ・情報モラルに関する指導とデジタル・シティズンシップ育成の充実
- ・ICT支援員の効果的な活用について地域学校園で情報交換

(5) 宇都宮学

①基本的考え

城山地域学校園の特色を最大限に生かすとともに、SDGs、主権者教育との関連を図り「宇都宮学」を推進する。

②主な取組

- ・本校が城山地区の特色である自然や産業等を生かし長年実施している「ふるさと学習」に、「宇都宮学」の内容を位置付け
- ・城山地域学校園における授業力向上プロジェクトの研究として、「SDGs、主権者教育と関連を図った宇都宮学の学習の充実に向けた研究」を実施
- ・魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、「宇都宮学」で活用できる資料を収集した「城山ライブラリー」の充実
- ・城山地域学校園内における学習内容（SDGsを含む）の共有化

(様式2)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和4年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

学習内容定着度調査（3年）の結果から

- ・国語科…全体的に市の平均をやや下回っている。特に「書くこと」が3.3ポイントほど市の平均を上回っている。
- ・社会科…全体として市の平均をやや下回っている。「地理的分野」も「歴史的分野」も3.3~5.7ポイント程度下回っている。
- ・数学科…市の平均とあまり変わりはないが、数と式については6.7ポイント下回っているし、「データの活用」については7.5ポイント市の平均を下回っている。理科…すべての観点でほぼ市の平均を下回っている。特に「生命」については5.1ポイント、「粒子」では5.7ポイント市の平均を下回っている。
- ・英語科…すべての領域・観点で市の平均を下回っているが、特に「書くこと」が6.3ポイントほど下回っている。

(2) 学習と生活についてのアンケートなどから（カッコ内は市の平均値）

- ・「授業を集中して受けている」という項目に対する本校の肯定的な割合は1年生が87.6ポイント（88.9）2年生が89.8ポイント（88.4）で市の平均とほぼ変わりなかった。
- ・家庭学習では、「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の肯定的な割合が、1年生では43.3ポイント（49.5）2年生では44.9ポイント（42.4）であった。また、「平日の学習時間」では、1時間未満の生徒が2年生では25.5ポイント（25.7）、1年生では29.9ポイント（23.4）と家庭学習が不足している。

(3) 授業等への取組状況から

- ・学年や教科によって若干の偏りはあるものの、チャイム着席や授業開始・終了時のあいさつなど、時間を守り落ち着いた態度で授業に臨んでいる生徒が多い。また、PCを活用した質問に対しての肯定的割合が高く、ICTを活用した授業実践の成果が見られる。「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」という項目に対する生徒の肯定的割合は、2年生では77.6ポイント（71.4）、1年生では77.1ポイント（68.9）と少しずつではあるが、授業の中で話し合いの機会を数多く設定してきた結果が出ている。ただ「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では、1・2年生ともにやや市の平均を下回っている。今後も主体的・対話的で深い学びの実現に向けて力を入れて取り組んでいきたい。

2 今年度の重点目標

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実（学習計画等の活用）
- ・読解力向上に向けた読書活動の充実
- ・学習習慣の定着を目指す指導の充実
- ・主権者教育、SDGs との関連を図った「宇都宮学」の推進

3 今年度の取組（文頭に「学校教育スタンダード」に関する取組は★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は□、授業における取組のうち重点は○）

（1）学力の定着と向上

★□「全国学力・学習状況調査」や「学習内容定着度調査」・「学習と生活についてのアンケート」等の結果から、基礎・基本の定着状況や学習への意識を把握して、課題を明らかにした上で指導の工夫や改善について教科部会等で協議し、共通理解を行う。

※令和4年度1学期の共通実践事項。（目標、振り返りを明確にした授業・評価の改善）

★○「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉とし、自主的な家庭学習への取組を習慣化させ、基礎・基本の定着を図るとともに、自主的に学ぶ意欲を高める。

- ・読書活動を充実させるため、「朝の10分間読書」の時間を有効に活用し読解力を向上させる。また、図書館で授業を行うなどを通して、図書館資料や他の情報媒体の特性を知り、活用できるようにする。

★家庭学習について各教科で予習・復習の仕方、テスト勉強の仕方、AIドリルの活用法などを指導し、適切な課題を与えて授業やテスト等で活用させることで、効果的な学習の仕方を身に付けていけるようにする。

- ・一人一人に応じた指導を行うため、個々の生徒の特質を教職員で共通理解し、TTや習熟度別学習を行うとともに、かがやきルームを支援的に活用する。
- ・学習指導を充実させるため、小学校と学習状況についての情報交換や相互授業参観を継続して行う。

○3分前チャイムによる着席、授業開始・終了時のあいさつ、授業中の姿勢など授業でのルールやマナーを徹底し、学業指導を通して学びに向かう集団を育成する。

（2）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

□「宇都宮モデル」を留意した授業展開や、1人1台端末による協働学習ツール等の活用についての研修や情報交換を行う。

□「校内公開授業週間」を企画し、教職員の指導力の向上を図る。

○学習課題と「見通し」から授業の目標を明示し、課題の設定や発問の仕方を工夫して課題解決への意欲を持たせる。

★各教科で話し合い活動等（協働学習ツール活用も含む）を積極的に取り入れ、言語活動の質的向上を目指す。生徒が自力または他者と交流して課題解決にあたるのを、一人一人の学びを見取りじっくりと取り組んでいくように適切に支援する。

- ・漢字や計算力、英単語等の基礎学力を確実に定着させるため、単元末テストや小テストを計画的に継続して行い、AIドリルを活用する。

□課題解決的な学習展開を工夫して主体的に学ぼうとする意欲をもたせ、授業の終末で

は本時の学びを振り返らせる。

(3) 未来を生き抜く力の育成

○地域学校園で指導している「学習のきまり」との関連をもたせながら、発言の仕方や他の生徒の発表の聞き方・ノートの取り方などについて、授業ガイダンス等において指導を行う。

○一人一人のよさを認め励ますことで、意欲的に課題に取り組む姿勢を育てる。

★□総合的な学習の時間（ふるさと学習・あったか活動）をとおして主権者教育、SDG s との関連を図った宇都宮学の推進を図る。

□○授業で1人1台端末等のICTを活用して学習の充実を図り、情報リテラシーおよびデジタル・シティズンシップを育成する。

・総合的な学習の時間と学級活動等においてキャリア教育・主権者教育に関わる学習の充実を図り、「宮・未来キャリア・パスポート」等の活用によって主体的に学ぶ力と社会を生き抜く力を育む。

(様式3)

校 種	小 ・ ☒ 中 どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	--	------	-----	-----	------------

令和4年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・いたずらやからかいが多少あるものの、学校生活アンケートなどから早期解消に至っている。
- ・不登校生徒が依然として増加傾向にある。該当生徒への対応として、担任が家庭連絡をしたり定期的な家庭訪問したりしている。支援が困難な生徒に関して、生徒指導部会で話し合いを重ねて方向性を見出している。また、SC・MSの活用や教室に入れない生徒の一時的な居場所であるサポートルームの活用、SSWやまちかどの学校、教育センターなど、学校内外の担当者、関係機関がチームとなり対応を検討しながら支援にあたっている。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・いじめ防止についての取組では、いじめ防止に関する道徳や特別活動、集会やアンケートの実施を継続して行っており、生徒の肯定的回答が94.4%と高い割合を示していた。
- ・「生徒は、進んで学習に取り組んでいる」生徒の肯定的回答の割合が92.6%と高い数値を示しており、学習に前向きに取り組んでいる。

(3) 学校生活の状況から

- ・生徒会主催によるあいさつ運動などの継続的な取組を行っており、あいさつを積極的に行おうとする意識が高くなっている。1日1善活動などの良い行動を放送するなどして温かい雰囲気の中で生活している。
- ・学習面や生活面で、継続して取り組むことが難しく、物事に粘り強く取り組む姿勢に欠ける生徒が多くなってきている。

2 今年度の重点目標

- ・規範意識の醸成
- ・自己有用感を高める指導の充実
- ・認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、不登校対策における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 時と場に応じた挨拶やマナーの習得を目指す取組の工夫

- ・あいさつやマナー向上のため、生徒会主催の活動とともに、学級単位のあいさつ運動や小中学校と連携（年2回）した、あいさつ運動を継続して行う。

□生徒指導主事を中心に月目標を設定し、学校全体の課題としてとらえ、全職員であいさつ

や言葉遣い等が適切にできるよう指導する。週1回行われる部会において目標と実施の確認を徹底し、全員で取り組む雰囲気を作る。

- ・基本的な生活習慣が確実に身に付くように、定期的に身だしなみチェックを行うとともに学年集会等で学年主任や生徒指導担当教員が全体に語りかける機会を設ける。

(2) ★生命や人権を尊重する態度の育成といじめを許さない集団づくり

☐〇いじめの未然防止のため、「学校生活に関するアンケート」を継続実施するとともに、生徒主体による「いじめゼロ集会」の実施や「イエローリボン」の配付を通して、思いやりのある心やいじめを許さない態度を育成する。

☐〇スマホ・携帯電話等によるトラブル防止のための出前講座やマナーアップ講座などを実施し、社会のルールやマナーについて考えさせる。

- ・学校行事の振り返り川柳の作成・掲示や、授業で制作した作品を掲示したものを鑑賞して称賛するなど、望ましい環境づくりを継続して行う。

(3) ★自己有用感を高める指導の工夫

☐生徒の自己有用感や自信を育てるため、学習面や学校行事において、粘り強く取り組むことができるよう支援し、達成できた事実に対して承認・称賛する。

☐「人のために役に立った・貢献している」という喜びや達成感・成就感を味わえるように生徒の小さな成功体験を学級の時間や学年集会、生徒会活動、表彰などを通して計画的に称賛する機会を設ける。

(4) ★集団に適応できない生徒や問題行動等のある生徒への適切な対応・支援

☐〇居がいのある学級づくりのため、Q-U検査や年3回の教育相談を実施・充実させる。

☐〇〇生徒の悩みや不安、問題行動等の早期発見・早期対応のため、各種関係諸機関やSC、MS等と定期的な情報交換を行うなど、連携を強化していく。また、サポートルームや1人1台端末を活用し、学校での柔軟な対応を行う。

☐〇〇全職員の共通理解のもとで一貫した校内支援ができるように、定期的な連絡会議をもち生徒指導の記録や欠席状況共有シートを活用し、支援の方針等を明示する。

☐〇〇職員研修において、不登校についての理解や対策の立て方、事例検討会等を実施する。

(5) 交通ルールや情報モラルの指導

- ・交通ルールを守ることやマナーについて指導を徹底し、事故防止に努める。登校指導・下校指導の回数を増やしたり、危険個所についての説明会を行ったりする。また、生徒たちが危険個所を調べ、伝えることで危機意識を高める。

☐〇デジタル・シティズンシップ育成のために、全校集会や各担任の話の中に取り入れる機会を増やす。また、ノースマホデーや出前講座などを効果的に活用する。

(様式4)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	15	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	------	----	-----	------------

令和4年度 健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

1 健康（体力・保健・食育・安全）に関する主な実態

(1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・昨年度から課題とされている投力について、その平均値は全学年で県平均値と同等であった。しかし、1学年女子の数値においては、およそ1pt 下回る結果となった。投力の向上という課題の達成に向けて、細かな部分に焦点を当てながら取り組み続ける必要がある。
- ・健康診断の結果から、肥満傾向の生徒が13.65%、痩せ傾向の生徒が2.54%いることがわかった。肥満傾向の生徒は特に2年生に多い。
- ・未処置歯のある生徒は全国平均とほぼ変わらないが、歯科検診で要治療となった生徒の医療機関受診が31.9%と進まない状況である。
- ・裸眼視力1.0未満の生徒は全国平均に比べて低いが、50.68%の生徒が1.0未満であり、0.3未満の生徒は全体の21.06%ととても多い。

(2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから（※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。）

- ・新体力テストの結果から見えた学校全体の課題を生徒に伝え、体力の実態について全生徒が把握することができた。そのことから、授業だけでなく、普段の生活の中でも意識して体力の向上を図ろうとしている生徒の様子が学習カード等から見取れた。
- ・保健について、質問項目「生徒は、手洗いやうがいなどを励行し、健康の維持増進に気を配っている」の肯定的回答は、教職員100%、生徒95.8%であった。ともに高い数値となっている。
- ・食事について、元気っ子健康体力チェックのアンケート項目「朝食の有無」で本校生徒の「毎日食べる」の回答は82%であった。多くの生徒が朝食を食べてから登校できている。一方で「食べない」と回答した生徒は全体で2%いた。
- ・宇都宮市学校マネジメントアンケートから、「健康や安全に気を付けて生活している」の生徒回答では94%で昨年度とほぼ同等である。手洗いうがい、アルコール消毒の徹底、不要不急の外出自粛、自宅での運動推進、定期的な交通安全指導、立哨指導等、様々な面から健康や安全について指導したことによる効果があったと考えられる。自転車の乗り方について、マナーやモラル等における細かな課題は残されているものの大きな問題に発展していない。

(3) 授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

（※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。）

- ・令和3年度には、全身持久力の課題解決の取組として、ほぼすべての授業の導入部分でランニングを取り入れた。年度当初には、苦しそうに走っていた生徒も、年度末にはほとんど見ることがなく、持久力の底上げにつながった。今年度でも継続していくことが求められる。
- ・手洗いチェック等の取組により、うつのみや学校マネジメント全体アンケートの質問項目「手洗いやうがいなどを励行し、健康の維持増進に気を配っている」の肯定的回答が、教職員・生徒ともに90%を超える結果になっている。手洗いチェッカーとブラックライトによる手洗いチ

ェックの取組や食パンを使った手洗い実験は、手洗いの意識付けとして高い効果があった。

- ・栄養教諭（学校栄養職員）によるティームティーチング授業を保健体育科の保健分野、家庭科の家庭分野、学級活動で行った。専門家の授業により、生徒たちの興味関心を高めるだけでなく、生活に必要な知識を身に付けさせることができた。
- ・あいおいニッセイ同和損保による交通安全教室の実施や、日々の登下校についての指導（校内放送や学級指導）により、生徒の登下校時のマナーアップが見られた。また、学校生活上の安全な生活において、月に1度の安全点検を実施し、随時危険箇所や故障箇所を管理職に報告するなどして対応した。学校環境の様々な箇所が積極的に修繕・修理がされた。

2 今年度の重点目標

- ・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開
- ・健康（感染症対策）と食の安全確保のための衛生管理、施設点検の充実
- ・栄養教諭を核とした望ましい食習慣の形成と食に対する感謝の念の育成
- ・家庭・地域・行政と連携して実施する危険予測・回避能力育成のための指導の充実

3 今年度の取組

（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★，「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□）

（1）体力の向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開

- ★□元気づき健康体力チェックの結果を踏まえた補強運動の実施（特に投力）
- ★□地域学校園で9年間を見通した系統的な体育指導

（2）健康と食の安全確保

- ★□保健だよりの発行及び学校HP掲載（毎月）
- ★□外部機関等と連携した保健教育【たばこに関する健康教育出前講座(1年生)・薬物乱用防止教室(全学年)・性教育出前講座(2・3年生)】
- ・生徒会環境整備委員会による校内美化コンクールの実施（12月）
- 生徒会保健体育委員会による健康情報発信・ハンカチ等確認・手洗いチェック実施
- ★□学校保健委員会・学校給食委員会の開催（12月）
- ★□歯科保健活動の推進（給食後の歯みがき指導の継続及びむし歯等の治療の推進）
- ★□地域学校園小中学校間の情報交換及び発達段階に応じた系統的な保健・食育指導の継続
- メンタルヘルス及び目の健康・姿勢に関する取組の実施

（3）食習慣の形成と食に対する感謝の念の育成

- ★給食指導の徹底（通年）
- ★□食育だよりの発行及び学校HP掲載（毎月）
- 給食一口メモ放送（毎日）、給食クイズ（年2回）、リクエスト給食（年2回）、バイキング給食（3年生の2月）の実施
- ★栄養教諭（学校栄養職員）とのティームティーチングによる、食に関する指導の実施
- ★家庭と協力した「お弁当の日」の実施（年2回）
- 生徒会給食委員会での残量調べの実施（12月）
- ★□地域学校園小中学校間の情報交換の密化と発達段階に応じた系統的な保健・食育指導の継続（地域学校園の統一献立の実施等）
- ★□地域学校園内での食育だより・保健だよりの交換と校内掲示

(4) 危険予測・回避能力の育成

- ★☐各外部機関と連携した火災・地震・竜巻・不審者侵入を想定した避難訓練（４、１１月）
- ★災害時や不審者に関する情報の家庭や地域への提供
- ★☐消防署と連携を図った職員の心肺蘇生法研修の実施（５月）
- ☐宇都宮ブリッツェンによる交通安全教室の実施（全学年１０月）
- ★☐家庭・地域と連携を図った交通安全指導の充実（交通ルールやマナーの遵守）